

# しみ取り軟膏

しみにもいろいろな種類があります。このうち顔面のしみ・くすみや肝斑の治療に、トレチノインとハイドロキノンを混合したしみ取り軟膏がお勧めです。これらの疾患ではメラニンが比較的浅い表皮基底層に沈着しています。トレチノインは表皮をピーリングし新陳代謝を促進してこのメラニンを排出し、ハイドロキノンは新しくメラニンが産生されるのを防ぎます。両者を使用するダブル効果でしみを効率的に取るわけです。やけどやケガ・手術・レーザー後などの炎症性色素沈着にも効果があります。太田母斑や黒皮症などメラニンが深い真皮にある疾患には残念ながら効きません。また顔面以外のしみや厚く盛り上がったしみにも効果は少ないです。

使用法は洗顔後ビタミン C 誘導体ローションを塗布し、まずこの混合しみ取り軟膏をしみ・くすみや肝斑の部位に広く日に 2 回 3~6 か月間塗布します。赤みが出てもお化粧品で隠せる程度なので安心です。その後ハイドロキノンのみを同様に 2~3 か月間塗布します。この間に赤みは消えます。その後また混合しみ取り軟膏に戻り、トレチノイン・ハイドロキノン混合とハイドロキノンのみを交互に良くなるまでくり返していきます。

しみ取り軟膏の欠点は、トレチノインに刺激があり皮膚炎をおこして発赤や灼熱感が出たり皮膚がめくれたりしますが、これが効いている証拠です。かえってこのような症状が出ない場合はしみ取り効果が弱いと考えられます。使用中お化粧品は可能で、皮膚が紫外線に敏感になるためサンスクリーン剤は必須です。またしみ取り軟膏は不安定で熱や光に弱いので冷蔵庫で保管し、1 か月で作り替えが必要です。

赤くなるのが絶対困る人にはメラニンの産生を防ぐハイドロキノンのみの使用でもくすみが取れ明るい皮膚になるのでお勧めです。またレーザー前後にハイドロキノンを使用すると美白作用があるのでレーザー光が深くまで入りやすくなり、さらにレーザー後の炎症性色素沈着も抑えられるのでより効果的な治療ができます。

ところで気になる費用ですが、これらの治療は残念ながら保険はききません。興味のある方はまず受診してご相談ください。相談のための受診は保険がききます。